

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700426		
法人名	有限会社 介護ケア道央		
事業所名	グループホーム めくもり 1階		
所在地	068-0115 北海道岩見沢市栗沢町最上293番地1(電話)0126-34-2322		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成22年8月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700426&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅地に隣接し商店や公園なども近くにあり、かつ自然豊かな場所に立地しており、建物向かいには二ユニットのグループホームが有りお互いに交流を持ち行事を楽しまれている。又地域の行事や活動へ参加し地域との係わりを重視している。理事者は地域の高齢者が地域で安心して暮らせる様にグループホームを事業を展開している。職員は理念に基づき、利用者本位にサービスを提供しており、サービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、緑豊かな環境に位置しながら、近隣には公共施設や商店、公園があり、便利に暮らせる立地となっている。建物は、明るく清潔感があり開放的で、リビング、居室、トイレ等がバリアフリー設計である。運営者は、地域の高齢者が地元で安心して暮らせる為の環境づくりに努め、地域貢献の一環として事業所を開設した。運営者、管理者、職員同士の信頼関係を築いており、地域での暮らしの継続を支える為の理念を掲げ、職員が一体となって利用者のより良い暮らしの実現に向けて取り組んでいる。事業所開設から5年が経過しているが職員の定着率は高く、利用者や家族との信頼関係を構築しており、家庭的な雰囲気と季節感豊かな自然環境の中でより良いチームケアを行っている。管理者は、職員の資質向上の為に積極的に研修への参加を促し、サービスの質の向上に努めている。職員は利用者に対し常に穏やかに接することに努め、その人らしい生活を第一に考えた、利用者本位の対応を実践している。また、町内会に加入し、農業祭や文化祭などの行事にも積極的に参加し、地域との交流も深めており、地域に密着したケアサービス提供を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内の見やすい場所に掲示しており、職員は日々の支援に活かしている。	開設時に制定した理念に加え「安心して地域に暮らしていける様に」と地域密着型サービスの役割も目指した内容に改定し、利用者の生活を主体とした理念の具現化に向けて話し合いを重ね、ケアサービスの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事に職員、利用者が積極的に参加している。(小学校の運動会、農業祭、文化祭)	事業所は利用者が安心して暮らし続けるための基盤づくりに努め、町内会に加入し農業祭、文化祭などの地域行事に職員と共に積極的に参加したり、事業所行事への参加も地域住民に案内するなど、双方向の交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者を交えた地域の草取り、ごみ拾い等の活動、及び日々の散歩時の挨拶、会話等の中で活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をその都度サービスに活かす様にしており、その他要望も聞く場としている。	運営推進会議は、利用者、家族、町内会代表、市担当職員、民生委員等を構成員として2ヶ月に一度定期的に開催している。会議では、利用者の状況、運営状況、行事予定や課題事項の報告を行い、情報の共有化を図ると共に、率直な意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所担当者が市町村担当者とは係わりを深めており職員は担当者から情報を得ている。	市の介護課担当者に運営推進会議で現況報告を行っている。また、担当窓口では生活保護に関する相談や情報交換を行い共有を図りながらサービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する講習もスタッフ全員が受け、身体拘束を行わない介護上の工夫を管理者と相談しながら行っている。	管理者、職員は身体拘束に関する講習を受け、身体拘束の内容を理解し弊害を認識しており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は夜間帯以外は鍵をかけないケアを実践しており、利用者の出入りはセンサーと職員の見守りで確認を行い、自由で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で何度か学ぶ事が出来、事業所内での虐待がないか又は、見過ごされていないか常に話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し後見制度を理解はしているが、現在対象者はいない。今後必要に応じて対応する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に基づき説明し、充分家族さんに理解して頂き、起こりうるリスク等も納得した上で入居して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見も聞き、不満、苦情を訴える事が出来る様配慮している。苦情箱を設置している。	家族の来訪や電話の際、話しやすい雰囲気づくりに努め、意向等の表出を促している。2ヶ月毎に発刊の会報に写真を添えて利用者の状況を伝え、日常の様子が理解できるようにしており、希望や要望等の受付案内も掲載し、寄せられた意見は運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングに職員の意見等を聞き運営者に報告し、出来る限り反映させている。	ユニット毎に開催するケース会議を通して、管理者は職員の意見や提案を受け止め、運営者に報告し、事業所の運営に反映させている。管理者、職員間のコミュニケーションは日常的にスムーズで、現場の意見が反映されやすい環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、管理者や職員の声に耳を傾け働く意欲の向上や質の確保につなげる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	道、空知ブロックグループホーム協議会等の研修会を受講し、研修内容を必ずミーティング又はその日のメンバーで研修内容を報告し共有している。マニュアルを作成し職員に周知し取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接しているグループホームとの合同行事や、散歩中お互いにお茶みしたりと交流もあり、それと空知ブロック協議会の研修会で意見や情報交換し、ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において本人は元より、家族からも何度もお話を聞き、本人の希望する事、困っている事、不安な事を聞き柔軟に受け止める様にする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族と本人の状況、サービスの利用状況等を時間をかけて話しを聞く様にしている。(話しを聞く事で落ち着いた生活が出来る。)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方には必ず本人、家族さんと見学に来て頂き、本人の今の状況を聞き、今、何が困って、今、何を希望したいのかを聞き出来る限りサービスに取り入れる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を家族として喜怒哀楽を共にする生活の中で、入居者が本来持っている個性や力を引き出し、共に支え合う関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問は頻繁であり、その都度入居者の近況を伝え、家族からの話しも良く聞き話あっている。又入居者が家族を求めた時は連絡し、家族の協力を得ながら問題解決する様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院や理容院に行っており、又命日には毎月お坊さんがお参りに来所したりし、一人一人の生活習慣を尊重している。	事業所は、利用者の馴染みの人や場所との関係を断ち切らせないように努めている。希望に沿って行き付けの理・美容院への訪問支援や先祖の供養の為の僧侶の来訪など、継続的な交流が出来るように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり、相談に乗ったり、毎日お茶や食事の時間はスタッフも一緒に食事をしながら多くの会話を持つ様にし、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になる様な働きかけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方の所に面会に行ったり、退所された家族さんも時々来所され近況を報告されたりし、その都度スタッフにも報告して関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者主体で考え、日々の係わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などから真意を測ったり、それとなく確認している。	利用開始時のアセスメントのほか、生活歴や家族からの情報を通して利用者への理解を深め、日々の暮らしの中で利用者に関心を払い、思いや意向の把握に努め、職員間で意見交換を行い、共有化が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞いたり、これまでのサービス利用時の資料を読んだり、今まで本人や家族のケアに深く関わって来た人達(ケアマネージャー、市職員等)から話を聞く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書に基づいたケアを行いながら生活記録を書き、又定期的にスタッフがケース会議をして、利用者本人について話し合うなどして、現状を把握する様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の困っている事を聞き、ケース会議等で一人一人のケアについて意見やアイデアを出し、それを反映した介護計画を立てモニタリングをしている。	センター方式によるアセスメントを基礎に、職員の気づきや意見を出し合い、月1度のケース会議などで検討している。その人らしい暮らしを支える為に、本人や家族の意見も考慮し、利用者個別の具体的な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気付いた事や、利用者の状況変化は個々のケア記録に記入し、職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて通院、送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高める様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様、消防や民生員と話し合う機会を設けている。ボランティアの方が来所した時は一緒に歌や踊りを楽しみ、又図書館、公園も利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する係りつけ医はそれぞれ持っており、基本的には家族が同行して受診する事になっているが、家族の都合がつかない時は職員が対応している。	本人や家族が希望する主治医がおり、定期的に継続受診の対応を行っている。基本的に通院には家族が付き添うが、家族の都合が付かない場合は、職員が通院介助を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が日ごろの利用者さんの日々の健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞う様になっている。又家族共情報交換しながら回復状況等、退院支援に結びつける。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合本人の希望があれば家族さんの意向も聞き入れ、係りつけ医と相談しながら出来る限りの支援をする。ターミナルについても要望があれば支援をする。	利用者の重度化や終末期を向かえる際の事業所としての支援体制については、検討を進める意向を示している。重度化や終末期の対応に関して、事業所としての明文化した指針が無く、職員間で方針の統一や支援の具体的な内容を話し合うまでには至っていない。	出来るだけ早い段階から本人や家族に向けて、重度化や終末期に対する事業所の対応指針及び同意書等を整備し明文化することが望まれる。また、今後の重度化、終末期の支援に向け、適切なサービスが提供出来るように職員教育の充実を図り、本人や家族の意向に沿う支援に繋げる取り組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは作成しており、救急車等の対応を地元消防署と連携して対応。又非常時の緊急連絡網により対応。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、利用者と共に深夜を想定し非難訓練を行い、又地域の消防署の協力を得て消火器の使い方の訓練も行っている。地域の協力については運営推進会議において協力をお願いしている。	スプリンクラーを設置し、カーテン及び床張も防火品に対応している。年2回消防署の指導の下、避難訓練や消火訓練を実施し、マニュアルも作成している。夜間を想定した訓練も行っているが、地域住民の具体的な参加には至っていない。	一時避難場所として隣接のグループホームとは連携体制が整っているが、次の段階として運営推進会議において地域住民の協力を呼びかけているので、災害時対策に関する話し合いや具体的な支援体制の整備に取り組むことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの折に職員の意識向上を図ると共に、日々の係わりで利用者さんの一人一人の人格を尊重しプライバシーを損ねない様な対応を心掛けている	管理者、職員は利用者本位の介護に努めており、利用者の尊厳に配慮した言葉がけに留意している。プライバシーに関わるケアも利用者の希望に沿って対応し、記録等の扱いも個人情報保護の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さん一人一人のペースに合わせて、思いや希望が少しでも叶う様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、一人一人の体調に配慮しながら買い物や散歩等、その時の思いに気使いながら柔軟に対応する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれ心を失わない様、定期的に美容師さんに来て頂いたり、理容室に出掛けるなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片付け等利用者さんと共に行い、職員と利用者さんが同じテーブルで楽しく食事が出来る様にしている。嫌いな物も食べられる様目先を変えたり、お茶碗、箸等本人の希望する物を使用している。	食事の献立は利用者の要望を取り入れて作成し、食材の買い出しは利用者と一緒に出かけている。食事の準備や後片付け等も出来る範囲で利用者が手伝い、職員も食卓を共にしながら和やかに食事を楽しんでいる。外食や行事食も取り入れ、日々の食事がより豊かになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録しスタッフが情報を共有しており、献立は栄養士さんにお申し送りカロリー計算がされている。夜間も水分を補給出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、出来る方、出来ない方に対してスタッフが見守ったり介助を行っている。又就寝前には義歯の洗浄も行い、週2回ポリドントをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日ごとの状態観察により排泄に不安がある利用者についてはトイレ前後の声かけと定期的排泄チェックによりパターン把握に努めている。夜間リハビリ使用している人でも日中は布パンツを使用。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握した上で、尊厳に配慮したさりげない声かけを行い支援している。パット等が必要な場合も利用者一人ひとりの状況に合わせて、検討しながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックをし便秘の人は食物繊維や乳製品を多く取りいれたり、又ストレッチ運動を行い便秘の改善に心かけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴は設定しているが、希望があれば何時でも入浴できる。	利用者の体調を考慮しながら最低週2回は入浴出来るように支援しているが、希望があれば毎日でも入浴可能である。入浴を拒否する利用者には、無理強いをせず、言葉がけやタイミングを工夫しながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活のリズムを整える様支援し、寝付けない時には温かい飲み物を飲みながら話し等したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の投薬情報をファイルに閉じスタッフが何時でも確認出来る様にしてあり、服薬の際も名前の確認、飲み忘れ等の見守りもしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来るようなお手伝いをして頂き、感謝の言葉を伝える様にしている。四季おりおりにはドライブ、買い物(大型店)外食等をして楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩時にはお弁当を持って出掛ける事もあり、外出の希望があれば何時でもスタッフ同行する様になっている。又季節の変化を楽しんで実感して頂ける様お花見や外食、ドライブ等を楽しんでいる。	当事業所は、自然に囲まれており、利用者は体調に考慮しながら日常的に散歩を楽しみ、買い物等にも出かけている。行事計画担当者が利用者の希望を取り入れながら、季節毎の行事を企画し、花見や資料館等の見学や外食等、積極的に外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者さんは、買い物時等、支払いが出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話も設置しており、利用者の希望で先方へ電話を掛けてあげたり、電話番号のメモを渡したりして何時でも掛けられる様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節ごとの飾りつけをして柔らかく暖かい雰囲気を作り出している。その他の共同空間も大きな変化をしない様配慮し馴染みの場所としている。	大きめの窓とバリアフリー設計が明るく広い開放的な共用空間となっており、光や温度、湿度、臭気にも注意を払っている。リビングには季節ごとに利用者手作りの壁飾りを施し、家庭的で居心地良く暮らせる空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には大きなソファを設置し、気の合った利用者同士会話を楽しんだり、お茶を飲みながらテレビを見たりし、又、新聞、雑誌が読める様テーブルも設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前本人が使用していた物、写真や使いなれた物を持ち込んで、利用者が居心地良く過ごせる様にしている。	居室には使い慣れた家具や仏壇、写真等を持ち込み、一人ひとりの個性に合わせた部屋を作っている。室内は常に職員の手入れが行き届いており、清潔で居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっており、通路、トイレ、お風呂場等には手すりを設置している。ベッドの高さも個人が使用しやすい様調整している。		